



STILL ALIVE
国際芸術祭 あいち2022
2022.7.30-10.10

愛知県政記者クラブ
一宮日刊記者会
常滑記者クラブ
中部芸術文化記者クラブ 同時

2022年7月8日（金）
国際芸術祭「あいち」組織委員会
電話：052-971-3111（代表）

国際芸術祭「あいち 2022」プレイベント 山本高之と猩々コレクティブ「猩々大行進」を開催します

国際芸術祭「あいち 2022」のラーニングでは、ラーニング・プログラムの活動を広く知ってもらうため、プレイベント「猩々大行進」を開催します。

本イベントでは、「愛知と世界を知るためのリサーチ」のプロジェクトの一つである「猩々大発生」の中で「山本高之と猩々コレクティブ※」と愛知県内の児童館の子どもたちが共に制作した約 40 体の「猩々」がアートラボあいちから愛知芸術文化センターまで練り歩きます。

※「山本高之と猩々コレクティブ」は本プロジェクト「猩々大発生」に参加するメンバーの総称で、「あいち 2022」ラーニング・キュレーターの山本高之を中心として結成しました。

1 イベント概要

(1) 日時

2022年7月23日（土）午前9時30分から午前10時30分まで
小雨決行、警報発令時は中止。雨天時は翌24日（日）に延期

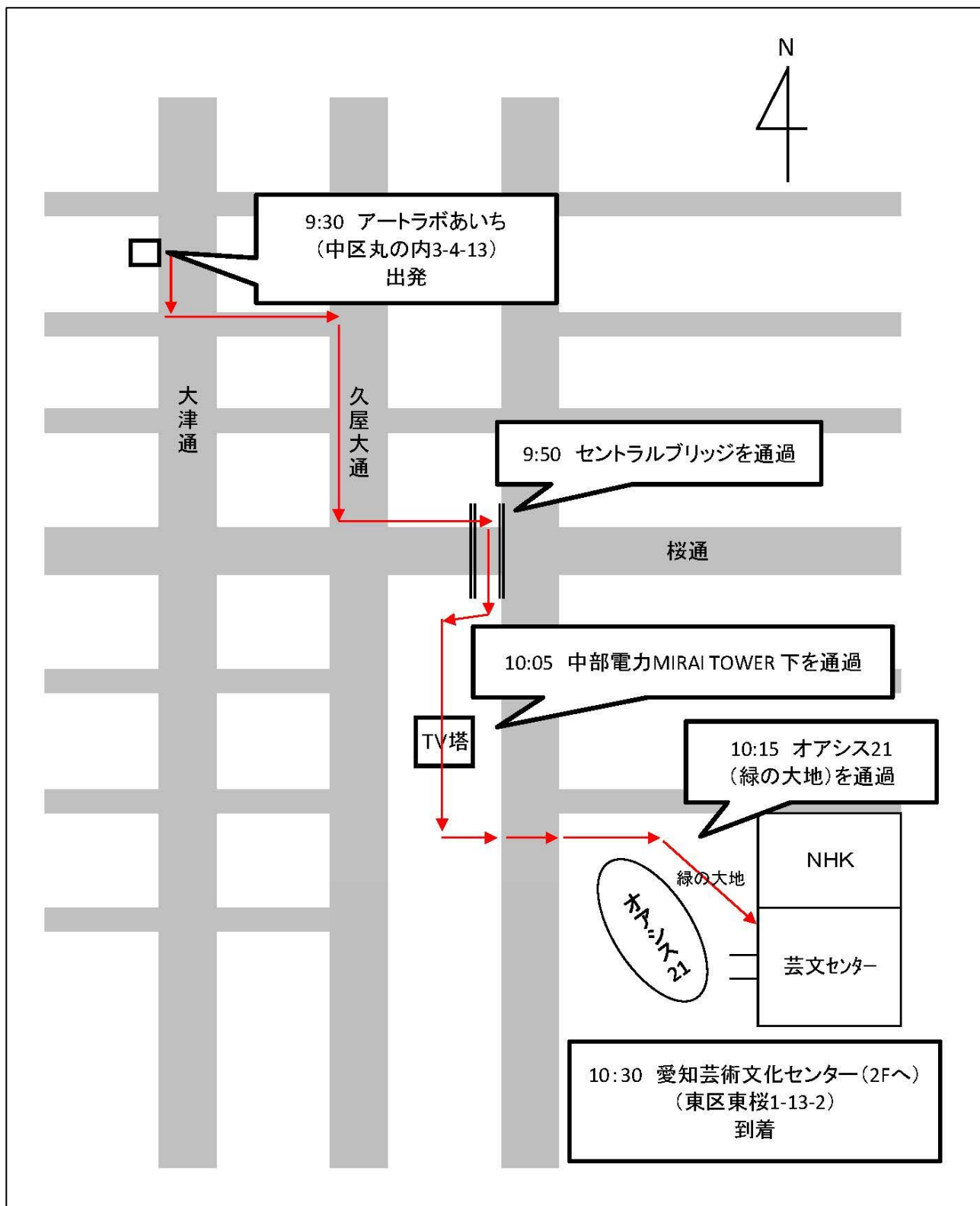
(2) 出発場所

アートラボあいち
名古屋市中区丸の内三丁目4-13 愛知県庁大津橋分室2・3階

(3) タイムスケジュール

9:30 出発（アートラボあいち）
9:50 ヒサヤオオドリパーク セントラルブリッジを通過
10:05 中部電力 MIRAI TOWER（旧名古屋テレビ塔）を通過
10:15 オアシス21 緑の大地（地上階）を通過
10:30 愛知芸術文化センターに到着
11:00 到着式（愛知芸術文化センター）

(4) 行進ルート



2 問合せ先

国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局

住所：〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目 13-2 愛知芸術文化センター 6階
(愛知県県民文化局文化芸術課国際芸術祭推進室内)

電話：052-971-3111

F A X：052-971-6115

U R L：<https://aichitriennale.jp/>

「猩々大発生」とは

アーティストで「あいち 2022」ラーニング・キュレーターの山本高之を中心として「山本高之と猩々コレクティブ」を結成し、愛知県の南部の一地域のお祭りに登場する大人形である猩々に焦点をあてたプロジェクトを実施。コレクティブでは、猩々についてのリサーチや制作、芸術祭会期中のイベント企画など様々なプログラムを展開中。愛知県児童総合センターとの共催により、県内5カ所の児童館において猩々を制作するワークショップを実施。制作した「猩々」は、芸術祭会期中にラーニング・ルーム（愛知芸術文化センター8階）にて展示される他、猩々にまつわるワークショップやイベントなどを実施予定。

共催：愛知県児童総合センター

猩々とは

妖怪や能の演目として有名で、顔は人間、体は獣の人語を解する化け物。酒が好きで、酒樽一個飲み干すと言われている。能では赤い能装束を着て、お酒をのみ舞い踊る、海中に住むものと紹介されている。これらのことから、酒にまつわるものや、赤色に縁が深い。

愛知県の名古屋市緑区（鳴海、有松）や南区（笠寺）、東海市、大府市、豊明市などの地域では、主に秋に開催される祭礼において登場する大人形のことを指し、1757年の文献の中に、鳴海村のお祭りの行列に猩々が並んでいたと書かれているのが最初とされている。

頭部は張り子、肩から腰までを竹で組み、羽織を着せたものを、人がかぶる。ちょうど、猩々の胸部から腹部のあたりに、中の人顔がくるようになるので、大人が被ると2mほどの大きさとなる。地域や時代によって、扱われ方は異なるが、猩々はお祭りで練り歩きながら、参列した子どもたちを追いかけ、手に持つ棒で叩いたり撫でたりすることで、無病息災を願うものとされている。

【コレクティブ・児童館での活動の様子】



【参考】

「あいち 2022」ラーニング・プログラムについて

○リサーチ

世界のあらゆる表現と向き合うために、自分たちの立っている場所を知ることが重視し、芸術祭が開催される「愛知」についてリサーチするプロジェクトです。アーティストと公募によって集まった参加者が歴史・文化・生活などの観点から数ヶ月かけてリサーチし、その結果は芸術祭会期中に展示され、ワークショップ等を通してさらに発展します。

○レクチャー

芸術祭や愛知、美術や舞台芸術を、歴史的かつ批評的に捉えることで、多角的な視点から「芸術祭」にアプローチするレクチャーです。2021年から始まったこのシリーズは、アーカイブを公式 Web サイトで公開しています。芸術祭開幕後は、アーティストやキュレーター、キュレトリアル・アドバイザーによるトークやディスカッションも予定しています。

○ガイドツアー

来場者が様々な形で作品と出会う機会を作ります。作品解説や対話型鑑賞を通じて、作品の見方や理解、鑑賞体験を広げ、深めていきます。キュレーターやボランティアなどが日本語以外の言語や視聴覚に障害のある方々なども含め多様なニーズに合わせて「芸術祭」をガイドします。

○スクール・プログラム

芸術祭と学校現場をつなぐため、教育関係者向けの研修プログラムや、児童・生徒向けの団体鑑賞プログラムを用意します。

○ボランティア・プログラム

研修を通じて「対話型鑑賞」の手法を学んだボランティアが、来場者と対話的な鑑賞の機会を創出します。また、「会場運営」や「対話型鑑賞による案内」そして「ガイドツアー」など様々な活動を通して芸術祭を支えます。

「愛知と世界を知るためのリサーチ」とは

ラーニングの参加プログラム「愛知と世界を知るためのリサーチ」は、芸術祭の開催地である愛知という土地にまつわる様々な事柄をテーマに取り上げ、我々が現在立っている場所について明らかにしながら、「世界とは何か」という謎に迫るリサーチをベースとしたプログラムです。

その一つ『監督と学ぶ』は、「あいち 2022」の監督・片岡真実が、今回の開催会場となる地域を中心に、専門家や地域の方々をゲストに迎え、対談形式で歴史・文化・産業などを学んでいくシリーズで、動画を公開していきます。

二つ目以降は、アーティスト等がリーダーとなって、様々な視点で愛知を発見していくプロジェクトを実施します。リサーチリーダーと公募による参加者たちが、フィールドワーク、ワークショップ等、グループごとのテーマに沿って自由な形式で活動を展開し、「あいち 2022」の開催期間中にその成果を発表します。

詳しくは各プロジェクトのページをご確認ください。

<https://aichitriennale.jp/learning/index.html>